

健康課題の把握と対策で企業価値アップを目指そう!

生活習慣の特徴に着目
異なる健康課題啓発へ

県健康保険所は、管内の企業、住民に健康への理解を深めてもらうため独自の取り組みを行っています。同保健所の管轄地域は塩釜、岩沼、黒川の3圏域の5市7町1村にわたります。それぞれ環境の異なる地域へ効果的に健康情報を伝えていくことを試行錯誤しながら進めてきました。

その中で黒川地区にメタボ該当者の割合が多いことに着目し、2014年から3年間、食生活や運動習慣についての調査を行ったこと

管内の健康理解推進へ。独自の工夫凝らす

塩釜保健所 宮城県

生活習慣の特徴に着目
異なる健康課題啓発へ

管内の健康理解推進へ。独自の工夫凝らす



東北大学大学院 医学系研究科 公衆衛生学分野 辻 一郎 教授

健康経営優良法人は、就活生からの人気が非常に高いとのデータもあり、そのようにして集まった優秀な人材が、しっかりと企業に定着し休

健康経営優良法人は、就活生からの人気が非常に高いとのデータもあり、そのようにして集まった優秀な人材が、しっかりと企業に定着し休

実行のメリット明らかに。経営者の決意が鍵

離職率の低下顕著
認定数は順調に増加



健康経営の取り組みが 企業・社会の未来を築く

従業員の仕事の健康づくりを推進することで、生産性の向上、優秀な人材確保、離職率の低下、企業のイメージアップなど、さまざまなメリットがある「健康経営」。企業の間ではスタンダードとなりつつあります。今回は健康経営の現状や今後の課題、地域課題に着目した取り組みをご紹介します。

三つの要素が追加 地域貢献目指す動きも

健康経営の裾野拡大を図るため、21年度から健康経営調査に新たに加わった展開が三つあります。①情報開示の促進②業務パフォーマンスの評価・分析③スコープ(範囲)の拡大です。①は調査の評価結果(フイー

メンタルヘルス対策は コロナ禍喫緊の課題

コロナ禍が2年以上続いた現在、その影響が最も深刻なのがメンタルヘルスの問題です。世界でも20年の1年間で、うつ病性障害は5320万人増加しています。この数字は前年比28%増。国内でも若年層や女

暇を取れているということ。では業務内容はどうかという点、健康経営銘柄に選定された企業の平均株価は、東証株価指数を上回る形で推移しています。健康経営優良法人認定数を見てみると、21年と22年の全国での比較で、大規模法人が1801社から2299社、中小規模法人が7934社から12255社と順調に増えていきます。宮城県では、大規模法人は2社増加とやや停滞ですが、中小規模法人は168社から266社と全国に引けを取らない増加数です。健康みやぎサポーターズの取り組みが、会けんほ宮城支部のサポートの効果が表れていると思います。

メンタルヘルス対策は、コロナ禍喫緊の課題です。性自殺者が増えているとされています。コミュニケーションの不足によりメンタルが不調となり、企業の活力も低下するため対策は喫緊の課題です。私自身の体験として、コロナ禍でオンライン会議が増えた結果、出張が減り時間を有効に使えるというメリットを得た一方、実は会議の前後の雑談タイムが重要だった、という実感があります。インフォーマルなコミュニケーションをオンラインでも活用して、ワークエンゲージメントを高めるにはどうしたらいいかを考える必要が出てきているのです。その方法を属人的なものとしてずかずかワンマンのスキルとして



塩釜地区、岩沼地区、黒川地区それぞれの健康課題を啓発するポスター

「夕食時間が遅い」などの特徴が判明しました。

16年に宮城県で「スマートみやぎ健民会議」がスタートしたことを機に、塩釜、岩沼地区でも健康課題調査を実施。塩釜地区は「朝食欠食者が多い」、岩沼地区は「夕食後の間食や早食が多い」と、各地区のメタボにつながる生活習慣を絞り込むことができました。その結果を受け、19年度には各地区向けの健康課題をキャッチコピーにしたポスターを作成・配布。それぞれ、一歩踏み込んだ啓発を行っています。

健康づくりの取り組み
広報紙で情報共有

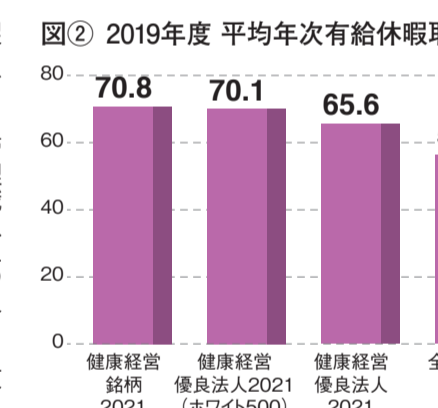
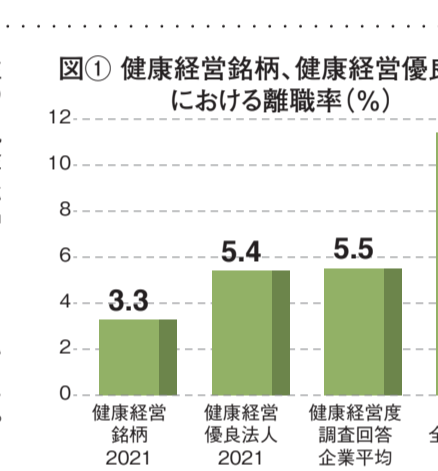
大崎保健所と連携して毎年実施する「歩数アップチャレンジ」は、18年から黒川・岩沼地区、19年から全管内の事業所へ参加を呼び掛け、2カ月間の歩数を3人1組のチームで競うもの。昨年コロナ禍の実施では「事業所内で励まし合うこと」で会話、交流が生まれたなどの声も多く聞かれ、社内のコミュニケーションツールとしても役立てられました。歩数アップチャレンジは今年度から全県の取り組みに事業を拡大。7月から参加者募集が始まる予定です。管内で健康づくりに積極的に取り組む事業所の事例は、同保健所が

歩数アップチャレンジ 2022

対象 宮城県内の事業所
期間 7月から参加者募集、10月から実施予定

詳しくはこちら

健康経営はすでにトレンド以上ものになっていきます。ただし、始めるには経営者の決意が何よりも重要です。やろうと決断すればノウハウはたくさんあります。自社の従業員の健康問題は何か、経営陣に従業員を交えて車座で考え、最も大事な二つ、二つの問題に絞った、そこから先は外部のサポートなどを利用するといでしょう。まずは小さなこと一から始めていただくことと願っています。



健康にいきいきと働ける職場をつくる

健康経営勉強会

できることから始めよう

従業員の健康管理を経営的な視点で考え、実践する「健康経営」を分かりやすくご紹介する勉強会です。企業経営者や労務管理の方など、健康経営に興味のある方はどなたでもご参加いただけます。

会場&オンライン 同時開催
参加費無料 (要申し込み)

会場参加 河北新報社別館5階ホール
WEB参加 ライブ配信 **開催日時** 8月2日(火) 13:00~14:30 予定 (会場受付12:30~)

対象 企業の経営者・健康管理者ほか ※応募多数の場合は抽選となります。

7月上旬 詳細告知予定 健サポフレ登録企業の方には事務局よりご連絡いたしますので、ぜひご登録ください。

健サポフレ登録企業 増加中!

「健サポフレ」は、職場における従業員の健康づくりに関心のある企業・団体に登録いただく会員組織です。河北新報社が健康経営実践のサポートをはじめ、職場での健康づくりに役立つさまざまな情報をご提供します。

登録料・会費 無料

健サポフレ新規登録はWEBサイトから
<https://www.kahoku.co.jp/ad/health-supp/entry/> 健サポフレ 検索

お問い合わせ 健康みやぎサポーターズ事務局(河北新報社営業局営業部) Tel.022-211-1318 10:00~17:00(平日のみ) 企画・制作/河北新報社営業局